

2023.12.26 シニアクラブ Online 会合報告

6月から始まった浮世絵「東海道五十三次」を眺めながらの江戸～京の旅は、行きつ戻りつしながら半年続いてきました。

今回はその総集編とタイトルには書きましたが、2023年最後の会合となるところで、ひとまず纏めをしようと思います。見れば見るほど後からあとからネタがあがってきており、このテーマは来年もまだまだ続きそうです。

上の図には今まで観てきた資料の中の「日本橋」を5枚並べました。浮世絵や名所図会、滑稽本など様々な街道ものが世間に出回り、多くの庶民が旅への憧れをいただいたことでしょう。例をあげると・・・

- 秋里籬島、他「東海道名所図会」寛政9年(1797)6巻刊行
- 十返舎一九「東海道中膝栗毛」享和2年(1802)～文化6年(1809)
- 北斎「東海道五十三次(絵本駅路鈴)」文化中期(1810年代)
他に北斎の東海道ものは7種類ほど知られている
- 広重「東海道五十三次」保永堂版 天保5年(1834)版行
広重の東海道ものは38種、五十三次は13種ある



中でも、1834年刊行の版元「保永堂」版 歌川広重「東海道五十三次」は描かれた絵の美しさ、親しみやすさなどから好評を博し、版元も儲かり、広重は絵師として一躍、浮世絵界のトップに立つような人気を得ました。そしてこれらの絵は海外にも広まっていきました。

しかし、広重自身は実際に旅をすることなく、ある元絵を見ながら模写しただけとの話もあります。最近、それに関する本を入手して開いてみたら、江戸、京および53宿合計55枚の絵の内、明らかに違う3枚を除き他はほぼ同じ絵となっています。8月の会合ではこの真贋論争があることを紹介しました。



- 今までこの会合の中で、広重の保永堂版「東海道五十三次」を機に旅行ブームが起きたと述べてきましたが訂正しなければなりません。1810年に「旅行用心集」なる本が刊行されていたことが分かり、広重以前からすでに庶民の間では旅行ブームが起きていたことになりました。その本の内容は次のページで紹介します。
- 次に、年末にあたり、参加者の何人かに今年の思い出などを語ってもらいましたが、皆さん歳のせいとか病気の話に集中してしまいました。内容は省略します。健康には十分気を付けましょう。
- 平塚さんからは寿会横浜中央支部で12月に実施された北鎌倉～鎌倉の散策とそこに参加した人たちの紹介がありました。「駅から散歩」として支部恒例の行事で、すでに106回を重ねているとのこと。
- シニアクラブの企画「円覚寺写経と座禅」でも同様のコースを歩いていますが、歴史散策などで健康と体力維持をはかりたいものです。
- 左の写真の中にサンタさんがいます。前日の25日は多忙だったそうで、実際にボランティアで地元の児童施設を訪れてプチプレゼントを手渡しクリスマスソングを歌ってきたとのことです。本日もその披露がありました。 <https://youtu.be/4odQKWX8WqM>



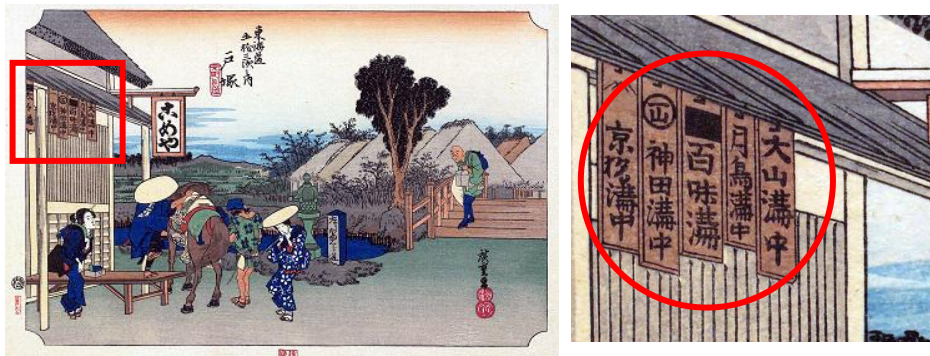
江戸時代の旅について

江戸時代、街道が整備され全国の大名が参勤交代で本国と江戸の間を定期的に往復し、道中においては各地に金が落ち、江戸や京をはじめとして各地の情報や文化、名物などが全国に伝搬しました。

庶民の移動は特別な理由がない限り厳しく制限されていましたが、情報の伝搬と共に旅への関心が高まり、江戸時代後半ともなると寺社参詣や病氣平癒の湯治など理由があれば旅をすることが許されるようになりました。

滑稽本、名所図会、浮世絵などの印刷物を庶民が容易に手にすることができるようになって、旅への憧れが増して旅行ブームに拍車をかけたことでしょう。

しかし、旅をするにはお金がかかるため、地域における相互扶助組織の「講」を組んで、数人が代表になって富士講、伊勢講等の名目で旅をすることが多くありました。下の絵は広重の描いた「戸塚宿」で、軒には「大山講中」と書かれた札も下げられています。



旅から戻り講仲間に報告するために道中の日記も残されています。一つの事例としてネットから次の史料を得ることができました。100日以上にも及ぶ長旅で、毎日の天気、出発到着時刻、食費、川の渡しなどの費用や宿の良し悪しなど細かく記録が残されています。

【史料】天保三年(1832)西国道中記：常陸国久慈郡下土木内村(茨城県日立市)の5ヶ村8人の一行の西国寺社めぐりの旅

http://saki-archives.com/2017/saigoku_dotyuki.html

旅行用心集 八隅蘆庵(やすみろあん)著 1810年刊行

参照：印刷博物館 <https://www.printing-museum.org/collection/looking/29385.php>

旅好きだった著者が、これから旅をしようと思う人たちからいろいろと質問されるので、自身の経験や伝聞等をまとめた本。この時代にはすでに庶民の間で旅行ブームが起きていたこととなります。

この中には旅の支度から宿や道中において気を付けなければならないこと、毎日の日記を書き留めておくことなど、旅に際しての細かな指南がなされています。兵庫県立歴史博物館コラムにはこの内容が挿絵も添えられ面白く書かれているのでこのサイトをご覧ください。

https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/digital_museum/trip/column_youjin/



序文には、次のように書かれています。

旅に出る前はワクワクするものであるが、長い旅の途中には、泊まった宿の食事がまずかったり、土地の習慣の違いなどで気まずい思いをしたり、病になったり怪我をしたりと、様々なトラブルに遭遇することがある。これらは全て修行と考えるべきものであり、自分勝手な行動を慎まなければならない。

このように長い旅は言い表せないほどの苦労があるが若者にとってはよい人生修行である。「可愛い子には旅をさせ」という諺もある。旅の経験のない人は旅の苦勞を知らず、旅はひたすら楽しく物見遊山のためだけにするものだと思っている。そのため人情に疎く自分勝手な人間になってしまう。きっと陰で後ろ指を指されて笑われていることも多いだろう。

現代の人間にとってもなるほどと思ったり、身につまされるような内容もあります。「可愛い子」だけではなく「シニア世代」もいつまでも刺激を求め、新たな発見を求めて旅を続けていきたいものです。その為にも日頃の足腰の鍛錬が大切ですね。

今年は広重の浮世絵を中心に見てきましたが、今回宮田さんからは北斎の富嶽36景の一部紹介もあり、この話は当分続きそうです。2024年もまたこの場でお会いしましょう。

2023.12.27 シニアクラブ事務局長 田代 周